



昭和31年度の経済計画

(経済企画庁)

区 分	単 位	29年度実績(A)	30年度実績		31年度 (C) 目 標	対 前 年 度 比	
			見込	(B)		(B) (A)	(C) (B)
総 人 口	万 人	8,835	8,926	9,017	% 101.1	% 101.0	
就 業 者 数	〃	3,982	4,110	4,200	103.2	102.2	
完 全 失 業 者 数	〃	64	67	65	104.7	97.0	
国 民 総 生 産	億 円	73,587	79,310	82,630	107.8	104.2	
分 配 国 民 所 得	〃	61,322	66,840	69,710	109.0	104.3	
民 間 資 本 形 成	〃	11,282	12,570	13,660	111.4	108.7	
個 人 消 費 支 出	〃	46,904	49,720	51,710	106.0	104.0	
一 人 当 り 消 費 水 準	29 年度 = 100	100.1	106.1	109.3	106.1	103.0	
鉄工業生産水準	9~11年 = 100	166.9	182.8	196.0	109.6	107.2	
農林水産 〃	25~27年 = 100	105.2	121.4	114.2	115.4	94.1	
卸 売 物 価	27 年 = 100	98.5	97.8	97.8	99.3	100.0	
C P I	26 年 = 100	117.7	116.4	116.4	98.8	100.0	
受 取	百 万 ド ル	2,366	2,769	2,810	117.0	101.5	
輸 出	〃	1,602	2,050	2,200	128.0	107.3	
一般貿易外	〃	※ 175	164	160	93.7	97.6	
特 需	〃	589	555	450	94.2	81.1	
支 払	〃	(2,127) 2,022	(2,525) 2,380	(2,635) 2,605	(118.7) 117.7	109.5	
輸 入	〃	(1,797) 1,692	(2,045) 1,900	(2,220) 2,190	(113.8) 112.3	(108.6) 115.3	
一般貿易外	〃	331	418	415	126.3	99.3	
バ ラ ン ス	〃	(239) 344	(244) 344	(175) 389	— —	— —	

(注) ※MS A農産物購入補填金4,800万ドルを含む。

(備考) 1. ドル、ポンド、スワップおよびO/A 2 ウィング決済は除外した。

2. ()内の数字はドルおよびポンドニーズ等による支払繰延増加がなかった場合を想定したときの計数である。

3. 上記の支払繰延増加額は29年度1億500万ドル、30年度1億4500ドルおよび31年度3億100ドルである。

新 市 町 村

伊奈村

1.沿革 本村は筑波郡の南部に位し、常磐線取手駅から約10K、谷田部町からは約12Kに村の中心部があつて、その西部を小貝川が貫流している。この村は昭和29年7月1日に、谷井田、三島、豊、小張の4カ村が合体し、さらに30年2月6日には板橋、久賀の二カ村を編入して、今や面積 47,06平方科、世帯数3,138、人口総数12,568名(男6,071、女6,497)を擁する大農村として新しく発足したのである。



(間宮林蔵の墓)

樺太探検者として世界史上に知られている間宮林蔵は旧谷井田村の上平柳に生れ、今でもその墓が残っており、最近その顕彰事業が進められている由。彼は幕府の命令で寛政年間に千島諸島を巡視し、文化5年7月に単身扁舟に乗って宋谷を立つて、樺太全島を極めその後万難を排して沿海洲(東緯)へ渡り、さらにニコライスクを経て満洲地方を視察して帰国したのである。彼の書いた東緯

紀行は貴重な文献として学界に残り、彼の名は世界地図の一角に由緒ある間宮海峡として不滅の光を放ち、永久にその功績をたたえられている。この伊奈地方は昔谷原領3万石に包含され、寛永2年頃(328年前) 関東郡代伊奈半十郎忠治によって開墾された由。彼は徳川時代の水利事業家としても有名で、地方の用水や堰の構築に大変力を注ぎ、その功績は後世の人たちのあまねく尊敬するところである。このたびの合併後の新しい村名もこれにちなんで伊奈村と名付けられたわけである。またこの村は自治行政面においても非常に優れ全村民をあげて模範的農村の村づくりに邁進している。

2.産業 まず農業面を見ると農家戸数1,768戸、農家人口11,337名(男5,626、女5,711)、耕地面積2,477町、(田1,625町、畑834町)、山林原野842町、にのぼり、農村としての最もよい立地条件を有している。特に1.5町の耕地面積を持つている農家が306戸もあり、全村で電動機1,237台、石油発動機275台、動力用脱穀機1,346台、動力用もみすり機696台、動力用精米(麦)機904台を有しており、農村の電化と機械化が非常に進んでいる。またこの地方は土地改良事業が非常に進んでおり、本年も大型排水機(1,500粘ポンプ)を国費設置したそうである。次に畜産面を見ると牛936頭、乳牛100頭、馬100頭、山羊50頭、豚290頭、にわとり10,000羽、兎120頭を有し、年を追って酪農経営の農家が増加している。この村で目立つのは二毛作田が多いことと、立派な山林が多いことである。

次に工業面を見ると僅かに事業所19、従業者数21名、年間製造出荷額 1,600万円に過ぎない。さらに商業面を見ても法人及び常用労働者を有する個人商店8、従業者数27名、年間販売額 3,500万円に過ぎないが、個人商店で常用労働者のいない事業所は166、従業者数275名、8月中の販売金額600万円にのぼっている。

3.教育文化 ここには小学校5、中学校2(うち組合立1)あつて、生徒数は小学校1,518名(男787、女731)中学校916名(男456、女460)教員数は小学校47名、中学校27名にのぼり、特に組合立の谷和原中学校はその設備や事業面において非常に優れ他校の模範とされている。なお、合併後の昨年小学校2と村庁舎を新築し、本年もさらに小学校1を新築中である。農村には珍しく青年学級なども活潑にして料理、作法、生花、書道、柔道あるいは農機具講習会などを再々開いている由。

4. 財政

昭和30年度歳入歳出予算(当初)

(単位千円)

区分	税収入	地交方税	使用料及 手数料	国庫金	県支出金	繰越金	町村債	その他	合計					
歳入	35,987	9,000	148	2,980	457	300	700	473	50,045					
区分	議会費	役場費	警察 消防費	土木費	教育費	社会及 労働 施設費	産業 経済費	財産費	統計 調査費	選挙費	公債費	保健 衛生費	諸支出金	合計
歳出	1,027	11,918	3,371	3,175	19,771	353	3,130	25	181	497	702	565	5,330	50,045

大子町

1.沿革 水戸から快速デイズルカーで約2時間、若葉の色新しい山合にスグスグと伸びた麦畑や、美しく咲いた菜の花の間を縫い、車はさらに若駒躍る久慈の養流に沿って水郡線を北上すると、一段と山の気配が濃くなり間もなく西金、上小川、袋田を経て常陸大子に着く。大子町一帯は俗に保内郷ともいわれ、本県の最北端に位し、県下第1位の八溝山(1,022米)を境にして、福島県および栃木県に隣接している。ここは昨年3月31日に旧大子町を中心に依上、袋田、宮川、佐原、黒沢、生瀬、上小川の8カ町村に、下小川村及び諸富野村の一部を合体して、実に面積325.74平方科、人口43,124人(男21,11

7人、女22,007人)となり、全国でも稀に見る大規模な町として発足したのである。(昭和30年10月1日国勢調査)すなわち、本町は久慈郡の総面積及び人口の約55%を占めて県下第1位なることは勿論、全国でも第7位にのぼっており、町村合併の特異なケースとして注目されているわけである。

この地方は昔陸奥国に属し、白河氏や結城氏の所領となつていたが、常陸国に変わつてからは佐竹氏の領地になつて明治維新を迎え、その後水郡線が開通するに及んで商工業が発達し、今では県の出先機関である大子支所をはじめ、保健所、土木事務所、警察署や国鉄の機関区、電力区、保線区、通信区、民間バスの営業所、また簡易

顔 横 の

裁判所や営林署その他の他官公庁の出張所、大子一高、二高などがあり、奥久慈一帯における行政、産業経済、交通、教育の一大中心地として将来の発展が大いに期待されている。



(八溝山一帯)

またこの地方一帯は松や杉檜の繁茂する山岳地帯の中には名所、旧蹟が多く、春はつつじ、秋は紅葉と久慈の溪流を中心に幽雅な山水美の極致を十分味えるところである。すなわち袋田の滝をはじめ、県下唯一の温泉地帯でもあつて、県内は勿論関東近県からの観光客で常に賑わっている。袋田の滝は俗に四度の滝ともいわれ高さ、121米、巾73米に及ぶ崖上から4段になつて落ちる水の壮観さは誠に筆舌に尽し難く周囲の新緑との調和も実に美しく、まさに一幅の名画といひましよう。

花紅葉よこたてにして山廻の錦をり出す袋田の滝 西行

この滝はその規模と雄大さにおいて華厳、那智の滝と並び日本三大瀑布の一つとして全国に知られており、さらにその険しい山崖を登ると春爛漫と咲き誇る山桜の豪華な美しさに旅の疲れも忘れてしまう位である。この崖を登りつめた峯に有名な月居観音がある。この附近は昔から奥羽方面へのとりでが築かれ、戦略の要地としても常に重要視された由。ここから奥久慈一帯は勿論、福島県へ連なる山脈が重畳した阿武隈山脈を一望に取められ、近くには男体、八溝、矢祭山に臨み、遠くは白雪をいただく日光、那須の連峯を眺められる。

2. 産業 まず農業面をみると、農家戸数 4,618、農家人口29,174人(男14,272、女14,902)、耕地面積3,013.1町(田1,408町畑1,523町)、山林(農家所有)9,026町、原野(農家所有)1,388町、茶園 61町にのぼつており、中でも森林、原野の面積は久慈郡全体(農家所有)の山林66%、原野74%を占めている。(昭和30年3月1日夏期調査)この地方の特産物としては何と云つても木炭、薪、鮎、椎茸、保内茶(年産約27万貫)、こんにやく玉(年産約12万メ)などがある。次に畜産面をみると、乳牛907頭、役牛429頭、馬1,592頭、めん羊1,368頭、山羊1,122頭、豚317頭、兎3,278頭、にわとり15,903羽、蜜蜂20群にのぼつており、県内でも有数の畜産地帯となつてゐる。この地方は一般に山麓地帯が多いので、家畜の放牧や飼料の

採取に好適の条件を備えており、子馬の養成やめん羊、山羊の飼養が非常に盛んである。なお、旧大子町においては毎年10月に馬市が開かれ、子馬約 300頭が競売されるそうであるが、これは高萩、小里の馬市ともに、本県では非常珍しいものである。次に養蚕業をみると、地理的条件に比べては余り盛んでないが、それでも養蚕農家178戸、年間収繭高約4,000メにのぼつている。

次に林業面をみると、ここは何んといつても本県唯一の山どころにふさわしく、前述したとおり山林 9,026町原野1,388町で久慈郡の大半を占めており、年間の伐採量も針葉樹約35,000石、広葉樹約20,000石、薪約14万束、木炭約12万俵の多数にのぼつている。これらのものは県内は勿論京浜方面への出荷も相当多い由。なお、西金地区から採掘されている硬砂岩(鉄道用砂利)は年間12万トンもあるそうである。この町で一寸変わったことは、世界でも珍重される茸が昨年依上地区の山林で発見され学界の話題を呼んでいる由、りんごの試験栽培に成功し、年を追つて各地区にも栽培者が多くなり、大いに将来を期待されていることである。この外にも昔から楮(こうぞ)の栽培も盛んで面積30町、年間生産(剥皮)5,000メにのぼつている。また山どころだけあつて伐採とともに造林も盛んなことはいまでもなく、造林面積は杉、檜、くぬぎなど毎年300町もある由。

次に商工業面をみると、やはり旧大子町を中心に昔から発達したようで、まず法人商店および労働者を有する個人商店が100、従業者数1,251名、年間販売金額約4億円、常用労働者のいない個人商店529、従業者数908名、8月中の販売金額3千万円にのぼつているが、食料品小売業と飲食店がその中ばを占めている。(昭和29年9月1日商業調査)工業面は従業者4人以上の事業所総数39、従業者数 898名、年間製造出荷額は8億円を上廻り、も製材業が31カ所にのぼり、その大半を占めている。(昭中て和30年12月末工業調査)この外に従業者3人以下の小規模事業所が19(従業者46)ある。

3. 教育文化 本町には高校2、中学校9、小学校15があつて、高校学生は1,224名(男688、女536)、中学生徒3,477名(男1,773、女1,704)小学校児童6,308(男3,191女3,117)、の多数にのぼつている。

又ここには各種学校が4あつてこの地方の婦女子の洋裁や編物の教授を行つてゐる。

町としては林道の開発と相まつて、県、町道の改修を行い、国鉄、民間バスの利用によつて奥地への交通を何とか便利にしようとする努力しているようである。またこの町には鉄道駅が五つもあつてハイキングコースとともに大いに山の観光客を呼んでいる。この町では町営住宅20戸をこの程完成し、今後5カ年計画で100戸建設するとともに、大規模な汚物処理事業を開始している。また新生活運動も漸次浸透して来たが、特にカマドの改善は相当普及徹底したそうである。さらに農事研究会や青年婦人団体が中心になつて因習の打破や作業衣の改良に努めているが、冠婚葬祭の簡素化は逆戻りの傾向にあるようである。これは残念ながら全県においても最近特に目立つて来たようである。

昭和30年度歳入歳出予算(3月15日現在)

歳	町 税	地 方 交付税	臨時地方 財政特別 交付税	公営企業 及び財産 収入	使用料 及び手 数料	国 庫 支出金	県支出 金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	町起債 及び負 担金	分担金 及 預備費	合 計		
															歳入	歳出
入	53,711	45,570	2,444	202	1,304	10,404	4,683	1,915	1,020	1,900	867	11,520	127	135,667		
歳	議会費	役場費	警 察	社会及	保 健	産 業	地 方	財 政	統 計	選 挙	公 債	諸 出	予 備	合 計		
出	4,554	39,381	10,037	9,522	22,976	7,010	4,657	13,379	3,978	1,319	996	1,929	4,898	10,031	1,000	135,667